



2013年9月1日～6日参加

筑波大学1年 貴旺さん



僕の初めての海外が今回のカンボジアスタディツアーです。今僕は日常生活に特に不自由もなく、時間もある大学生なのにだらだらと毎日を過ごしていました。将来、国際的な人助けに関わる仕事に携わりたいのですが、このままではだめだ

と思っていました。そこでそんな自分に喝を入りたいのと、視野を広げたくて今回のツアーに参加しました。カンボジアに地雷がまだたくさん残っていることは知っていました。しかし実際に地雷で足を失った人や戦争経験者の方から話を聞くとその悲惨さや生々しさを強く感じて、知識として知っていることと実際にその現実を目で見ることには大きな差があると痛感しました。知ったようなつもりでいた自分は愚かでした。知り合いにも地雷被害者がいること、被害者には若い人もいること、少し道を外れれば地雷の被害に遭うかもしれない場所があること、自分の育ってきた環境との大きすぎる違いにショックを受けました。

また地雷や戦争のほかにもポルポト政権の話詳しく聞きました。強制的に農業へ従事させたり、インテリ層の大量虐殺など、正直言ってたとえ政策として思いついて

も実行されるわけがないと思えるようなことを実行していました。今はもうすでにその政権は崩れ、ポルポトは死亡し、その側近は裁判にかけられています。しかしそれで政治が健全になったかというとはそうではなく、国内に地雷があることで手に入る支援金を懐に入れている者がいると聞きました。支援金のために地雷除去に努めるアキラさんを妨害までしている事実には怒りを感じます。今こそカンボジアが発展するときなのに汚職が横行している、どこの国でも政治家は似たような者ばかりみたいです。



しかしそんな悪い人はもちろんほんの一部で、僕の出会ったカンボジア人は温かい人ばかりでした。ガイドのパナさんやドライバーのチョモラウンさん。そして現地の子供たちはとても元気でした。中学校で出会った子供たちは日本の中学生よりも意見の主張のできる子が多かったです。将来の夢をきちんと持ち、みんなに発表できるというのは見ていてとても微笑ましい思いがしました。自分の知らない外遊びをいくつか教えてもらって、一緒にやってみてとても楽しかったです。孤児院の子もとても元気で、披露してくれたアプサラダンスは見ていて楽しかったです。日本語学校の子供たちは熱心に日本語を勉強していました。日本語がとても上手で、自分が6年間習った英語と比べてみると自分は努力が足りないと感じます。日本語検定に受かったと知ったときの日本語学校学生の喜び具合がすごくて本当に熱心に勉強しているんだなあと感じました。またこのときに日本人がカンボジアへ行くこととカンボジア人が日本へ行くことの困難さの差を知りました。

今回ツアーを通して僕は自分よりも過酷な環境で生活している人にたくさん出会いました。自分よりも過酷な環境で暮らしていても自分よりも活き活きと生きている人ばかりでした。日本から出たことになかった自分がはじめてみた異国の文化、町の雰囲気、人々など今までの自分の常識や価値観、世界観と大きく異なることばかりでい

い意味で衝撃的でした。ツアーの目的だった自分の視野を広げることは達成できたと思っています。もう一つの目的である自分に喝を入れることも出来ました。今回の経験はとても貴重なものです。この経験を友達にも話そうと思います。ツアーを通して将来国際貢献を目指す僕に推進力をいただいた気がします。今は大学生としてできることをきちんとやるのが自分にとっての一步だと思うので、大学生がもつ時間を有効に使うことを意識します。